



# 総務文教常任委員会行政視察報告書

氣田量子

- 1、日 時 令和5年7月26日(水) 9:00～10:30
- 2、視察先 島根県浜田市
- 3、視察事項 浜田市定住促進のためのシングルペアレント介護人材育成事業について
- 4、視察内容

浜田市議会の歓迎に驚かされました。

エレベーターのドアが開くタイミングで太鼓がドンとなり、石見神楽でお迎えしてくれました。笛、太鼓、踊りと現職の議員が浜田市役所職員と共に朝早くから準備してくれました。

暑い中、汗だくで踊ってくださいましたのは、議運の委員長とのことで、視察歓迎のご挨拶も頂きました。我が市議会の先輩議員の方は、こんな歓迎は初めてとおっしゃっておいりました。感謝感激でございました。

浜田市も消滅可能性都市のひとつの危機感から、平成26年浜田市長が女性の意見を市政に反映させるために、女性職員によるプロジェクトチーム「CocoCala」を設立。定住人口増加に向けてひとり親の支援を内容とする提案があり事業化。

母子家庭の80.6%が就業。

正規の職員、従業員 39.4%

パートアルバイト 47.4%

派遣社員 52.1%

一般の女性労働者と同様に、非正規の割合が高い。

より収入の高い就業を可能にするための支援が必要。

また、ハローワーク浜田の実績によると職業別の有効求職者数と有効求人数で、介護人材確保の必要性が最も高い。

そこで、浜田市に移住して介護事業所で研修を受けつつ勤務する、ひとり親支援、定住自立人口の増加、介護人材の確保が実現した。

シングルペアレント介護人材育成事業の概要

7項目からなる支援内容があり、中でも、ネッツトヨタとの提携による中古車の無償提供には驚きました。

自動車会社の慈善事業と言っていましたが、十和田市の会社が同じように支援してく

れるのか、期待したいです。

住宅の提供、仕事、車、保育園と、至れり尽せりの支援です。

1期生から9期生まで取り組み、現在は補助金に関係もあり行なっていないが、あまり、行政が支援しすぎると、現住民からの批判があり、いづらくなって他市へ移住した方もあったそうです。

この当時、現在のようにひとり親支援はクローズアップされていなかったが、そこに目をつけ就労と支援まで実現する浜田市は先見の目があり、感心しました。

最終的に19世帯、44名が就労して移住している。

仕事も介護だけではなく、他にもあれば、もっと増えていたでしょう。

素晴らしい事業です。

1、日 時 令和5年7月26日(水) 9:00~10:30

2、視 察 先 島根県浜田市

3、視察事項 音楽を核とした定住促進事業について

4、視察内容

音楽を核とした定住促進事業。

若者が暮らしたいまちづくりのために令和2年「特定地域づくり事業」Biz.Coop を設立。

音大卒の若者を、2名東京からIターンで迎え、仕事の斡旋を行う。

令和3年、16名を迎え、ハイブリットウインドオーケストラを結成。年2回の定期演奏会を中心に、地域からの依頼を受けて演奏や企画演奏など実施。

勤務体系 6時間/日程度 132時間/月

就業内容 放課後クラブや障がい児デイサービスでの指導補助

ミニコンサートや音楽を取り入れた活動により、培ってきた音楽スキルを子どもたちの情操教育に活かします。

給料等 13万3千円/月 無期雇用 賞与なし 昇給なし

社宅貸与 本人負担15,000円

通勤用軽自動車貸与 本人負担2万円

車検代、自動車税、冬用タイヤ含む任意保険別途

浜田市からの財政支援

国、県の交付金等利用して、実質1名分 500万位

若い音楽家たちが定住して、派遣先の子どもたちの声

「子どもたちが、音楽に興味を持つようになった」

住民の声

「小さなまちで、こんなに身近でプロの演奏が聞けるなんて思わなかった。音楽家が来てくれて良かった。」

この事業が成功した秘訣

関係者のニーズが一致した

派遣社員(音楽家) 音楽活動を続けたい。(練習場所、仲間、発表の場)

学んできた音楽スキルを活かしたいー副業収入を得たい

派遣先施設

担い手不足を補いたい

情操教育を充実させたい

浜田市

若者の移住定住を促進したい

部活動強化により高校の魅力化を図りたい

等々

音楽家にターゲットを絞った移住定住のアイデアは斬新で素晴らしい。

十和田市にも若者が移住促進するためには、ターゲットを考え絞っていく必要があるのではないか。まずはプロジェクトチームの設立からだと思います。若い世代の移住定住に関してまだまだ協議が必要です。

1、日 時 令和5年7月26日(水) 15:00～16:30

2、視 察 先 山口県萩市明倫学舎4号館

3、視察事項 はぎポルトー暮らしの案内所

SMOUT 移住アワード2021 全国第一位について

4、視察内容

これまでは、「萩暮らし応援センター」として運営していたが、市役所内に設置されていたため、利用者のニーズに応じた柔軟な支援ができない、他の人に聞かれたくない話をしづらい、地域と関わりを持ちたい、役に立ちたい人たちのニーズ、想いに応じる場がない。

ふらっと立ち寄れる、居心地良い、移住定住、関係人口の拠点施設を整備しようとなり、令和4年にも萩、明倫学舎4号館内に萩への移住を検討している人や、萩と関わりたい人と地域をつなぐための拠点「はぎポルトー暮らしの案内所」がオープンしました。

スタッフは、移住支援員、ローカルエディター、移住就業コーディネーターなど配置。

地域移住サポーターや地域おこしメッセンジャーなどの有償ボランティアの協力を得て情報を発信、紹介している。

オンラインを活用した関係人口の構築のために、移住スカウトサービス「SMOUT」の活用により、2020年第3位、2021年第1位、2022年第5位と成果をあげている。

なんと言っても、明倫学舎が廃校した小学校をリノベーションして新しい設備を備えている所が素敵なので、移住相談も行きたくなるのではないのでしょうか。

観光課なども明倫学舎に移動していて、観光への力の入れ具合が垣間見る事が出来ました。

十和田市も市役所内から出て、とわふるなどで相談を受けるなど出来るのだろうか。駐車場の問題もあるが検討する価値はあると思います。更に移住定住者が増加するよう提案して参りたいと思います。

## 委員会行政視察報告書

委員会名	総務文教常任委員会			
活 動 委 員 名				
堰野端展雄				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
期 間 (年月日)	令和5年7月25日～令和5年7月27日（2泊3日）			
視察事項	○島根県浜田市 ・定住促進のためのシングルペアレント人材育成事業			
	・音楽を核とした定住促進事業			
	○山口県萩市 ・はぎポルトー暮らしの案内所			
視察先				
内容及び成果				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルペアレント人材育成事業について</li> </ul>				
<p>本事業のきっかけは、平成26年5月、日本創生会議が発表した「増田レポート」であった。</p> <p>このレポートによって浜田市も消滅可能性都市に。特に2010年からの30年間に20～30代の女性が半減する都市となっていた。これを受け、同年8月に女性職員によるプロジェクトチーム「CoCo CaLa」を設立。定住人口増加に向けて女性の視点で施策を提案してもらい、その中にひとり親の支援を内容とした提案があり、実施したものであった。</p> <p>まず、感心させられたことは女性の視点での施策提案。そして、年々増加しているひとり親を焦点としたことである。こういう発想、我々も見習わなければならないと思わされた。また実施過程でマスメディアの注目も集めながら、様々な課題を乗り越え成果を上げていた。特筆したい点は「ひとり親地方移住支援ネットワーク会議」を設立したことである。とかくこういう事業は自市のために！という考えが強く出るものと思うが、そこを超越し、ひとり親のための事業に発展した素晴らしい事業である。</p>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を核とした定住促進事業について</li> </ul>				
<p>本事業は令和2年6月施行の「地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律」に基づき、若い音楽家の定住促進を目指している。やはり、定住促進に力を入れてい</p>				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

る市だけあって、こういった法律にすぐ対応するところはさすがである。また、そのフットワークの軽さ故、成功していると言えるのではないか。音楽活動を続けたい、学んだ音楽スキルを活かしたい音楽家が集まり、担い手不足や子どもたちの情操教育を充実させたい施設が有り、結果若者の定住に繋がっていく。まさに三方良しである。

当市も現代アートの面で、国内でも注目されている市となっていることから、現代アートによる本事業のような施策を検討するべきと言える。

・はぎポルトー暮らしの案内所について

本事業は、これまで「萩暮らし応援センター」として市役所移住担当課内で様々対応していたが、開設日時が利用者のニーズに合っていない。他の人に聞かれたくない話がしづらい。移住ではなく地域とかかわりを持ちたい・役に立ちたいひとたちのニーズに応じる場がない等の課題から、ふらっと立ち寄れる、居心地が良い移住定住・関係人口の拠点施設を整備しようとはじまった事業である。特に、移住定住の総合相談に加え、「ゆるく萩とかかわりたいひとをつなぐ」ために、準備段階から地域内外の人を巻き込んだ手法で、活動人口を増やしながら交流拠点整備を行った。その甲斐あって、様々な意見が取り入れられており、施設内のシンボル「萩マップ」は場所、ひと、空き家、お困りごとなどを可視化し、観光ガイドブックには掲載されないローカルでディープな暮らしの情報を紹介したり、市役所の部課の組織を横断した情報発信がなされるなど、魅力的な取り組みがなされていた。また、公平・公正の観点から行政では発信しにくい有益な情報を民間の編集者が情報発信したり、オンラインを活用した関係人口の構築にも取り組まれており、ただただ感心されっぱなしであった。

今視察において、移住定住者、関係人口が多い地域は、様々な意見を取り入れながら、フットワークを活かし、新たな挑戦をしていくことにより、より良い方向に進んでいるように感じた。当然、失敗や課題はあるが、それでも前進し続けることが重要だと改めて感じさせられた。

## 総務文教常任委員会 行政視察報告書

小山田 剛 士

日時 令和 5 年 7 月 26 日 午前 9 時 00 分～

場所 島根県 浜田市役所内

浜田市役所を訪問し、浜田市における定住促進のためのシングルペアレント介護人材育成事業と音楽を核とした定住促進事業の取組について視察研修を実施。

### ○島根県浜田市の紹介

島根県の浜田市は平成 17 年に旧浜田市と旧那賀郡の 3 町 1 村 (金城町、旭町、弥栄村、三隅町) の 5 市町村が合併し、現在の浜田市として誕生。面積は 690.66 m<sup>2</sup>。人口は、合併当初は 63,000 人を超えていたが、減少し 50,129 人 (R5 年 3 月 31 日現在) となっている。(視察時点では 5 万人を切ったとのこと)

### ○シングルペアレント介護人材育成事業の取組状況について

浜田市においても人口減少が著しく、合併当初より人口は 10 年で 4,926 人も減少していた状況であった。さらに平成 26 年 5 月に日本創生会議のレポートにおいて、消滅可能性都市 (20～30 代女性が半減する都市) のひとつに指摘され、危機感を募らせた浜田市は女性の意見を市政に反映させるため女性職員によるプロジェクトチーム「CoCoCaLa」を設立。その中で、ひとり親家庭の世帯数や母子家庭の就業状況に着目。また、職業別の有効求職者数と有効求人数から介護サービスの職業が求人倍率は高いが求職者数は比較的少ないことが判明し、介護施設で働く人材の確保の必要性にも着目した。

ひとり親支援になり介護人材の確保にもなり、そして定住人口の増加にも繋がるとして、当該事業が国からの地方創生推進交付金を得て翌年に事業化された。

交付金をもとに市より研修生へ家賃補助などが支給、また市より事業所へ研修補助費等が補助、そして市より自動車販売会社へは中古車の車検費用相当額が経費として支払われるという事業スキームとなっている。

#### 《具体的な支援の内容》

- ・事業所から 1 年目は月額 15 万以上の給与、引越し代等の支度金 30 万、1 年間の研修終了後 5 年を経過したとき 100 万円支給、資格取得支援
- ・浜田市からの支援として養育支援月額 3 万、家賃助成として家賃月額の 1 / 2 (上限



2万)が1年目のみ

- ・市と提携している自動車販売会社から中古自動車を無償提供  
(維持費は本人負担)

支援内容の見直しをしながら充実させていき、住宅情報の提供、保育所等の紹介、歓迎会の開催など研修生の受入れの際の支援にも取り組んでいった。事業の反響は大きく、大手新聞社にも報道され、テレビなどにも取り上げられたとのこと。

年間3~4名程度の研修生を合計9期募集し、19世帯44名(子ども含む)を受け入れた。定着した人数を見ると22名(子ども含む)の方が定住につながったとのこと。

また、「ひとり親地方移住支援ネットワーク会議」を設立し、東京・大阪で合同移住相談会を行い、広域での連携を図るなど活動を全国へ展開していった。(全国の7市町村により構成)

しかし、事業の課題として難しい問題が以下の通り指摘されていた。

《事業の課題》

- ・研修生に対するケア

夜勤の際の子どもの世話をする制度の拡充、経済的困窮など事情を抱えた  
研修生への対応、支援終了後の定住

- ・公平性

市内在住のひとり親との支援格差

そして、今後の課題として、研修生の定着、定住と福祉・教育の連携、広域連携、事業の継続と4つの課題をあげていた。

十和田市においても人口減少対策は喫緊の課題であるが、移住定住政策として母子家庭に着目した点が新しく感じられ、また、人手不足といわれる職業のひとつになっている介護サービスとを結びつける発想は斬新で、女性ならではの発想であったと思った。

また、地元の企業と連携し、無償で自動車を提供してくれるというその仕組みは、大手企業であるから可能であったかもしれないが、地元企業と協力して市の施策に取り組むことは十和田市でも重要であると感じた。ひとり親家庭の支援について課題はあるものの検討する必要があると感じた視察研修であった。

## ○音楽を核とした定住促進事業の取組状況について

浜田市より若者の転出者数が増加するなどしている状況を踏まえ、令和4年に浜田市総合振興計画後期基本計画が策定され、「若者が暮らしたいまちづくり」に取り組んでいる。

令和元年に特定地域づくり事業推進法が公布されたのをきっかけに活用できないかと検討中のところ地元の音楽団体「石見音楽文化振興会」から音大生を誘致したい相談もあい

まって、「特定地域づくり事業協同組合」※を活用した「若い音楽家」の定住促進策の検討に着手したとのこと。

※「特定地域づくり事業」とは、地域人口が急減している地域に就労や社会的活動を通じて地域社会の維持及び地域経済の発展に寄与する人材を組合員の事業に従事する機会を提供するとともに地域づくり人材の確保及び育成並びにその活躍推進のための事業の企画・実施を行う。

《取組概要》

- ・「特定地域づくり事業協同組合」として「協同組合Biz.Coop.はまだ」を設立
- ・音楽を専攻したUIターン者を派遣社員として雇用  
令和2年度6名採用、3年度4名採用、4年度5名採用  
派遣社員として、1日6時間程度、月に132時間勤務。放課後児童クラブや障がい児デイサービスでの指導補助、音楽スキルを子ども達の情操教育に活かす。
- ・石見音楽文化振興会から音楽活動の場を提供され定期演奏会を行っている。

派遣先からは、プロの音楽家の演奏に感動している声や子ども達が喜んでいるなど評判がよく、地域住民とのつながりがもっているのが伺えた。

当該事業が成功した秘訣として、関係者のニーズが一致したことを上げている。派遣社員（音楽家）は音楽を続けたい。派遣先施設は担い手不足を補いたい。浜田市は若者の移住定住を促進したい。この3者のニーズが一致したからと。

また、振興会という核となる団体があり、さらに音大生というターゲットを絞った取組が効果的な求人活動ができたのではと評価している。

今後の課題として派遣先の事業所の確保、充実した音楽活動に向けた支援、地域の音楽文化の振興、地域との交流活動を上げていた。

移住定住に関して、ターゲットを絞って、集中した求人活動により効果的に人材を確保できたことは、先のシングルペアレント介護人材育成事業人にも共通するものと感じた。また、どういう人材がほしいという明確なものがあつたからこそ成功したと考える。十和田市においても地域のニーズを探り、全国的に有名な現代美術館を核として、美大生を集め移住定住へつながらなくとも、活動できる場を提供することで活動人口の増加につながるのではないかと考えるきっかけとなる視察研修であった。

## 総務文教常任委員会 行政視察報告書

小山田 剛 士

日時 令和 5 年 7 月 26 日 午後 3 時 00 分～

場所 山口県 萩市 萩・明倫学舎 3 号館交流室

萩・明倫学舎 3 号館を訪問し、萩市における「はぎポルトー暮らしの案内所」の取組について視察研修を実施。

### ○山口県萩市の紹介

山口県の萩市は、平成 17 年に旧萩市と川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の 1 市 2 町 4 村が合併し、現在の萩市として誕生。面積は 698.31 m<sup>2</sup>。人口は、43,275 人（R5 年 3 月 31 日現在）となっている。木戸孝允や高杉晋作など数多くの幕末の志士を生み出した地としても有名である。

### ○はぎポルトー暮らしの案内所への取組状況について

当市と同じく萩市も人口減少が著しく、合併当初より人口は 15 年で 13,364 人も減少している状況の中、市役所内に萩暮らし応援センターを設置して、空き家の情報提供や移住相談などを行ってきた。しかし、利用時間が限られるなど利用者のニーズに応じた柔軟な支援ができない、個室ではないため相談したくてもしにくい環境にあった。そのような課題を改善する為に、ふらっと立ち寄れる、居心地がいい移住定住・関係人口の拠点施設を整備することとなった。

#### 《ポイント》

- ・移住定住総合相談に加え、ゆるく萩とかかわりたい人をつなぐ新たな交流拠点
- ・準備段階から地域内外の人を巻き込んだ手法で整備し拠点にかかわる活動人口を増やす

そして、上記ポイントを踏まえ、令和 4 年に萩・明倫学舎 4 号館に「はぎポルトー暮らしの案内所」がオープンした。

## 《移住・定住促進の取組／4つの柱》

- ・移住希望者等への情報発信・呼び込み
- ・はぎポルトー暮らしの案内所一を拠点とした相談窓口
- ・萩市空き家情報バンク等による住宅支援
- ・UI ターン世帯に対する補助制度

## 《取組の概要》

### ① スタッフの拡充

- ・移住支援員を3名配置  
窓口で移住希望者の相談対応、空き家物件の現地案内、  
空き家情報バンク登録調査等
- ・ローカルエディターを2名配置  
ローカル情報の収集や編集・発信、地域外の人への受皿となるチームづくり支援等
- ・移住就業コーディネーターを1名配置  
移住希望者の就職相談に対応、移住希望者と市内企業のマッチング、  
リクルートとの協働事業の推進等
- ・出張はぎビズを1名配置  
市内の中小企業や起業を目指す方をサポートする伴走型の無料支援機関
- ・地域移住サポーター 17名（有償ボランティア）  
移住者が地域に早く定着できるように支援、空き家物件の現地案内等
- ・地域おこしメッセンジャー 16名（有償ボランティア、元々移住者）  
萩暮らしの魅力の情報発信、関係人口の受け入れに関する業務、

### ② 情報発信について

- ・部課の組織を横断した情報発信  
移住や関係人口を増やす上で有益な情報がバラバラに発信されていたが、  
移住担当課で情報を一元化 → 情報をまとめて移住担当課が編集・発信
- ・民間と連携した情報発信  
公平・公正の観点から行政では発信しにくい有益な情報を民間のエディターが  
情報発信  
→ 地域おこし協力隊OB・OGが「地域おこしメッセンジャー」として情報発信

### ③ 萩MAPの製作

- ・壁に大きな地図を配し、空き家の所在地など空き家情報がわかりやすく展示している  
地図を関係者で製作した。

④ オンラインを活用した関係人口の構築

- ・移住スカウトサービス「SMOUT」の活用→「SMOUT 移住アワード 2021」1位
- ・移住スカウトサービス「SMOUT」の利用効果  
→スマウト経由移住者数 R2 10世帯11人 R3 9世帯15人 R4 8世帯8人

⑤ お試し暮らし住宅

- ・梅ちゃんち、さんちゃんち などユニークな名称でお試し移住ができる住宅を提供

はぎポルトへの相談件数は、H29年512件だったものが、R2年には1241件、3年には1356件、4年には1063件と1000件以上の相談がきている。

そして、はぎポルトを通じた移住世帯、移住者数は、R3年には過去最高の59世帯103人の移住者があった。ちなみにR2年は49世帯76人、R4年は51世帯79人となっている。

《課題と展望》

- ・場所があっても、そこに相談できる人がいないといけない。
- ・現地に来ないとわからない部分もあるので、今年度はポータルサイトで萩MAPを閲覧できるようにしたい。

とのこと。

移住定住は、全国どこの地方でも力を入れて取り組んでいると思うが、はぎポルトの仕組みとして、相談しやすい環境はもちろんのこと、空き家対策にもつなげながら移住相談を一つの窓口で行っていることやオンラインを活用していることなど参考になることが多かった。また、はぎポルトー暮らしの案内所ーのシステムとして、次につなげるために関係人口を大事にしている印象を受けた。人と人とのつながりが、定住につながることを実践している良い例だと思う。担当者の方の言葉で印象に残っているのが、H29年の最初の頃に移住してきた人たちが、頑張って地域の人たちとの信頼関係を築けたからこそ、現在も新しい移住者が先の移住者を仲介して、地域の人達とうまく関わることができている。信頼関係が成り立たなければ定住は難しいという話だ。

気持ちよく住めるところでなければ長続きはしないし、信頼関係があつてこそ心にゆとりをもってその地域に馴染むことが出来ると思う。しかし、移住してくる人たちの関わり方も大事だが、迎える側にも移住者受け入れの中心となる地域の人材を配置し、お互いに信頼関係を築ける環境をつくることも重要ではないかと感じた視察研修だった。

## 総務文教常任委員会行政視察報告書

- 1 報告者：十和田市議会 立憲農民クラブ 議員 太田 正幸
- 2 視察日時：令和5年7月26日（水）9：00-10：30
- 3 視察先：島根県浜田市（浜田市役所本庁舎5階第4委員会室）
- 4 視察内容：「浜田市定住促進のためのシングルペアレント介護人材育成事業」について  
「音楽を核とした定住促進事業」について
- 5 視察目的：浜田市の移住定住事業がどのように進められているかを理解し、十和田市にも応用できる知見を得る。

### 6 内容（浜田市における主な取組み）

#### (1) 浜田市定住促進のためのシングルペアレント人材育成事業

事業背景－①浜田市も消滅可能性都市のひとつになったことを受け、市長の指示のもと女性の意見を市政に反映させるため女性職員によるプロジェクトチームを設立する。（チーム CoCoCaLa）

②母子家庭の非正規の割合が高くより収入の高い就業を可能にするための支援が必要と考え、求人倍率が高い介護サービス業に対して求職者数が低いことに着目し、浜田市に移住して介護事業所で研修を受けて勤務すると同時に介護サービス業の人材確保をねらう。

事業概要－①国の地方創生推進交付金を活用し、市からは移住者へ養育費と家賃の補助、事業所へ研修費補助、協定自動車販売会社から中古車を提供した。②令和元年から建設業、タクシー事業へ拡大

研修生募集の取組－①住宅情報の提供・・・空き家バンク登録物件や市営住宅等を紹介②保育所等紹介・・・幼児がいる研修生に対して入所可能な保育所の紹介、休日保育やファミリーサポートセンター事業の紹介③生活相談員配置・・・生活上の相談対応のため半年間生活相談員（近所の専業主婦、民生委員など）を配置④レンタカー借り上げ・・・中古車提供までの間、市でレンタカーを借り上げ⑤歓迎会の開催・・・研修生同士などとの交流につなげる。⑥研修生や受入事業所との定例連絡会議  
事業の課題－①研修生に対するケア・・・夜勤の際の子ども世話をする体制②公平性・・・市内在住ひとり親に対する支援との格差（令和2年度で事業終了）

#### (2) 音楽を核とした定住促進事業

令和元年「特定地域づくり事業推進法」が公布されたことを受け「特定地域づくり事業協同組合」を活用した「若い音楽家」の定住促進策

あらゆる業種の組合員（事業者）への人材派遣業。県外の音大生を派遣社員に雇用し音楽活動の傍ら派遣により収入を確保している。中には派遣企業へ就職するなど、移住効果が表れている。

7 所感：浜田市の移住定住事業は、国の制度を活用することはもちろん地域の事業者や組合との連携が確立されていることではないだろうか。行政主導でない、民間主導でもないところに地域力が発揮されている。少子高齢化、人口減少をどうとらえるか、子育て支援はもちろんだが、誘致企業とはまた違った働ける場所を確保する策を学ばせていただいた。市民で考え、行政や事業者などが取り組むこと、実効性を図ることから地域の活性化や愛着がうまれているように感じた。

## 総務文教常任委員会行政視察報告書

- 1 報告者：十和田市議会 立憲農民クラブ 議員 太田 正幸
- 2 視察日時：令和5年7月26日（水）15：00-16：30
- 3 視察先：山口県萩市（萩・明倫学舎 3号館交流室）
- 4 視察内容：「はぎポルトー暮らしの案内所」について
- 5 視察目的：萩市の移住・定住促進の取り組みが、十和田市にも応用できる知見を得る。
- 6 内容

### (1)萩市の概要

人口約4万人、面積約700km<sup>2</sup>、人口密度62人/km<sup>2</sup>、2005年3月1日市2町4村が合併新萩市となる。人口の推移は1955（昭和30）年約97千人をピークに2020年約44千人となった。

### (2)移住相談の傾向

移住相談件数がコロナ前に比しコロナ禍以降約1.8倍1,000件を超え、令和3年度には過去最高の59世帯103人の移住者数となる。ここ数年では子どもが手を離れた40代50代の世代が増えて約40%を占める。

### (3)移住定住促進の取組

①情報発信・呼び込み②はぎポルトを拠点とした相談窓口③空き家情報バンク等による情報発信④UIJターン世帯への補助制度

### (4)はぎポルトー暮らしの案内所ー

①取組に至った経緯・・以前の暮らし応援センターでは市役所内に設置されていたため利用時間に制限がありニーズに応じた柔軟な支援ができなかったこと。聞かれない話がしづらい。移住ではなく地域との関わりや役に立ちたい人たちのニーズと想いに応じる場がなかったことからふらっと立ち寄れる移住定住・関係人口の拠点施設を整備することとなった。全国屈指の規模を誇った萩藩校明倫館であり旧小学校を内装や家具をDIYにより公共施設とは違う空間を整備した。

②取組の概要・・窓口移住希望者等相談対応や空き家物件現地案内、空き家バンク登録業務を担う移住支援員3名、ローカル情報の収集・編集・発信や地域外の人を受け皿となるチームづくり支援等を担うローカルエディター2名、移住希望者の就職相談や移住希望者と市内企業のマッチングアテンド、リクルートとの協働事業推進を担う移住就業コーディネーター1名、市内中小企業や起業をサポートする伴走型無料サポートを担う出張はぎビズ1名、他移住サポーター17名、地域おこしメッセンジャー16名体制。施設内には市を見える化した「萩map」

移住や関係人口を増やすための有益な情報がバラバラに発信されているため情報を一元化（企画系、移住系、産業系、農林水系、教育系）

③課題と展望・・施設だけでなく会える職員、会いたい職員がいることが大事で移住相談はノウハウやスキルが重要なので会計年度任用職員もいるが継続的にいれることが必要だ。展望としては「萩map」がネット上でいつでもどこでも見れる仕組みを作っていきたい。

### 7 所感：

率直な感想として、相談したい人の視点を着実に捉えていて相談時間や相談場所、相談員の3要素を役所の弊害を克服したとても良い事例だと思った。ぜひとも十和田市でも要素が揃っているところがあるので、このような支援体制が構築されれば更なる移住者を見込めると同時に子育て支援分野も組み入れれば若年世帯の増加も見込めると感じた。

# 総務文教常任委員会視察報告書

齊藤重美

島根県浜田市

令和5年7月26日

## シングルペアレント就労(介護)人材育成事業について

本市は、これまで社会基盤の整備や、浜田那賀方式自治区制度による地域の個性を生かしたまちづくりを積極的に進めてきたが、平成17年度の合併時に約6万3000人だった人口は、令和3年2月末時点で約5万2500人と減少し、高齢化率も37%となった。

少子化に伴う自然減に加えて、都会地などへの進学や就職を理由とした社会減が人口減少の大きな要因となっている。

経済社会の担い手である若い世代の減少は、市内企業における働き手の確保、特に、高齢化の進展により需要が増大している介護現場における深刻な問題となっていた。

### 事業の背景

#### 事業化までの流れ

- ① 平成26年5月 日本創成会議が「増田レポート」発表
- ② 平成26年8月 女性の意見を市政に反映させるために、女性職員によるプロジェクトチーム設立
- ③ 平成26年10月(チーム「CoCoCaLa」)設立

↓  
↓  
↓

シングルペアレント介護人材育成事業がスタートした。

まったく十和田市と同じだと思いました、また全国的にも同じです。

少子高齢化で、担い手が居ない、介護・農業も同様。

何か対策をしなければならぬと思っています。浜田市の取組を参考にして当市も動かなければと思いました。



山口県萩市

令和5年7月26日

## はぎポルト - 暮らしの案内所 - ついて

・ 移住相談の傾向としては  
はぎポルト - 暮らしの案内所 - への相談件数  
コロナ後の移住相談 1356 件でコロナ前の 1.8 倍に UP !

はぎポルト - 暮らしの案内所 - 通じた移住世帯・移住者数  
令和3年度は過去最高の59世帯103人が萩市に移住!

### 移住定住促進の取組/4つの柱

- 移住希望者等への情報発信・呼び込み
- はぎポルト - 暮らしの案内所 - を拠点とした相談窓口
- 萩市空き家情報バンク等による住宅支援
- UJI ターン世帯に対する補助制度

移住定住促進に向けて、観光客が目に止まるポスター掲示・日帰りツアー等あれば、興味のある人も出てくるのではと思いました。

土・日曜日も対応出来ればと思います。

# 総務文教常任委員会行政視察報告書

戸来 伝

- 
1. 日 時 令和5年7月26日（水）
  2. 場 所 島根県浜田市
  3. 視察項目 「浜田市定住促進のためのシングルペアレント介護人材育成事業について」
  4. 内容、所感

平成26年に日本創生会議で発表した通称「増田レポート」によると、浜田市も消滅可能性都市のひとつで、2010年から30年間に女性が半減する都市となっていたため、市長が女性の意見を市政に反映させるために女性職員によるプロジェクトチームを設立。チームから提案のあった取組の1つとして、ひとり親世帯の推移、就業状況、介護人材確保の必要性から県外在住のシングルペアレント（高校生以下の子供がいる親）を対象に、浜田市や民間事業者と連携し1年間の支援を行い、同市に移住して介護事業所で研修を受けつつ勤務してもらい、介護人材の確保、定住人口の増加を図る事業を行ったとのことであった。

支援の内容は、給与、養育支援金、家賃助成金、一時金（支度金）、継続就労一時金（奨励費）、資格取得支援のほか、自動車販売会社と協定を結び、中古自動車の無償提供を受け、2年目以降も継続した利用が可能となっている。

実績として19世帯44名を受け入れ、定着者数は9世帯22名となっていたが、年々応募者は減っていき、国の地方創生交付金の廃止に伴い事業も終了した。

主な事業の課題として、市内在住のひとり親との支援の格差があるのではとの意見が寄せられていたとのこと。

- 
1. 日 時 令和5年7月26日（水）
  2. 場 所 島根県浜田市
  3. 視察項目 「音楽を核とした定住促進事業について」
  4. 内容、所感

地元にある一般社団法人石見音楽文化振興会から音楽家を志す若者を地域に呼び込みたいという相談を受け、浜田市で検討していた特定地域づくり事業協同組合制度を活用し、振興会と民間事業者とで「協同組合 Biz. Coop. はまだ」を設立。同市は組合運営費の1/2を助成。助成の1/2は特別交付税の措置を受けることができる。

組合の採用状況は令和3年度から毎年5～6名となり、音楽家の定着が図られている。この事業が成り立った理由として、音楽家、振興会等、同市と三方の目的が一致したことによるとのこと。

また、移住定住において新しい価値観、新しい働き方（パラレルキャリア、副・複業）が尊重される時代への転換期に当該事業が始まったことであるとの分析であった。

- 
1. 日 時 令和5年7月26日(水)
  2. 場 所 山口県萩市
  3. 視察項目 「はぎポルトー暮らしの案内所」について  
(「SMOUT 移住アワード2021」全国第1位)

#### 4. 内容、所感

萩市のコロナ後の移住相談件数はコロナ前の約1.8倍に増加し、市役所内に設置した「萩暮らし応援センター」で相談を受けていたが、土日の相談ができないことや、仕事帰りにふらっと立ち寄れる居心地が良い移住定住・関係人口の拠点施設の整備が課題となっていた。その後、萩・明倫学舎の空きスペースの利活用の検討を行っていたことから、移住担当課でプレゼンを行い設置されることとなったとのこと。

また、移住・定住の総合相談所の整備に加え、新たな交流拠点を整備することとし、準備の段階から地域内外の人を巻き込んだ手法で整備し拠点に関わる活動人口を増やすことをポイントとした。具体的には、全てを工事発注するのではなく、施設の内装や家具はDIYワークショップで萩地域木材を活用し制作している。

主な取組としては、

①施設内のシンボルとして「萩map」を制作し、萩にある場所、ヒト、空き家、お困りごとなどを可視化、観光ガイドブックには掲載されていないローカルでディープな暮らしの情報を紹介している。

②移住や関係人口を増やすうえで有益な情報がバラバラに発信されているため、移住担当課で情報を一元化、部課の組織を横断した情報発信を行っている。

③公平・公正の観点から行政では発信しにくい有益な情報を民間と連携し、民間のエディターが情報発信している。

④移住スカウトサービス「SMOUT」を活用し、オンラインを活用した関係人口の構築を行っている。「SMOUT」の特徴としてオンライン上で双方向のやり取りができることであるが、コロナを想定したサービス利用ではなかったが、結果的にコロナへの対策となり、移住者数の増加につながっていったとのこと。

移住担当者は素敵な場所には素敵な人がいないと来ないという考えで、今後もノウハウ、スキルを持ったスタッフを継続して雇用、構築できるかが課題であるとのことであった。